

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月15日

事業所番号	3272100284		
法人名	有限会社はるひ福祉サービス		
事業所名	はるひ苑 津和野		
所在地 (電話番号)	〒699-5606 島根県鹿足郡津和野町寺田67番2 (電 話) 0856-72-1588		
評価機関名	NPO島根介護ネット		
所在地	松江市白潟本町43番地市民活動センター		
訪問調査日	平成 19年 5月 8日	評価確定日	平成19年6月6日

【情報提供票より】(19年 4月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 9人

(2)建物概要

建物形態	単独型	新築
建物構造	木造瓦葺平屋	
	1階建ての	階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	48,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		2名	要介護2		2名	
要介護3		3名	要介護4		2名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	86.2歳	最低	73歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	津和野共存病院	和崎医院	オクダ歯科医院
---------	---------	------	---------

開設1年7ヶ月のホームであるが家族や地域との連携を重視した取り組みを行っている。管理者の「職員は仕掛け人」という考えの下、入居者の特技が日常的に発揮できるような支援があり個々のペースが尊重されている。毎月、モニタリング結果やはるひだより・入居者の写真などが送付され、家族の意見要望が出される仕組みがあり、運営にも活かされている。近所の方をはじめ同法人の宅老所やグループホーム利用者との交流も日常的に行われている。運営者をはじめ職員ははっきりとした理念や方針を持ちサービスの向上に意欲的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった「広報活動に関すること」「苦情相談窓口の改善」「昼間に鍵を掛けない」「居室に分かりやすい表示を」などは、職員の意見や運営推進会議での議論や行政の助言など外部の意見も参考に、それぞれ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員の意見を元にまとめられた自己評価票となっている。カンファレンスなどで課題や改善策に取り組んでいるが、先立つ議題が優先され全項目を計画的に検討するには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
	外部評価や行事などの報告を行い、参加者の感想や意見を取り入れ課題の対応策や諸行事の具体化などに活かしている。ほぼ二ヶ月に一回開催され、はるひ苑での取り組みを参考にしたいなどの意見も出され、関係者の交流や相互刺激の場にもなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や日頃の訪問時の対話などで出された意見や要望などが、ホームの運営や諸行事開催に活かされている。不満や苦情も行政や職員だけでなく家族会会長にもいえるシステムがあり、家族が言いやすいように配慮されている。毎月、家族からの意見や要望が出せるシステムも作られ、毎回のようにコメントが寄せられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し近所や馴染みの方との触合いを大切に地域の行事には積極的に参加している。公民館祭りではホームの絵手紙などの作品を展示した。近所からの差し入れがあったり、おすそ分けをしたりとの関係も出来ている。保育園児やボランティアの出入りもある。管理者は市町村の担当者を訪問したりと行政との連携も細やかに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの目的や役割を理解し、利用者がなじみの環境やなじみの人たちと過ごせるよう理念や方針をきちんと持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のケアカンファレンスやミーティングなどでのモニタリングやケース検討が行われ、理念に沿ったケアが行われているかを振り返っている。理念はホーム内に掲示され、職員で唱和も行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し近所や利用者の馴染みの方との触れ合いを大切にしながら、祭りなどの諸行事には積極的に参加している。公民館祭りではホームの展示コーナーが作られ絵手紙などの作品を展示した。保育園児やボランティアの出入りもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員の意見を元にまとめられた自己評価票となっている。カンファレンスなどで課題や改善策に取り組んでいるが、先立つ議題が優先され全項目を計画的に検討するには至っていない。	○	全職員で評価や改善策を検討することの意義を再確認され、年間計画などにより課題が共有・具体化できるよう計画的に取り組まれるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や行事などの報告を行い、参加者の感想や意見を取り入れ課題の対応策や諸行事の具体化などに活かしている。ほぼ二ヶ月に一回開催され、関係者の交流や相互刺激の場にもなっている。	○	ホーム内の諸会議との連動に心がけ、自己評価や外部評価での課題が共有・具体化できるよう計画的に取り組まれるよう期待したい。学校の先生をはじめさまざまな分野の方にも参加を働きかけ、地域密着型の機能が前進できるよう期待したい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月発行する「はるひ苑便り」の送付をはじめ、運営推進会議での助言を得たりと市町村と連携が細やかに行われている。管理者も市町村担当者を訪問したり、保健・福祉及び医療対策審議会にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアプランやモニタリング結果・受診票・経過報告書・はるひだより・入居者の写真などが、管理者の毎月の挨拶やお知らせ事項と共に送付され、家族からは意見要望なども出される仕組みとなっており、丁寧な対応が行われている。家族からは非常に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日頃の訪問時の時の対話などで出された意見や要望などがホームの運営や諸行事開催に活かされている。不満や苦情も行政や職員だけでなく家族会会長にもいえるシステムがあり、家族が言いやすいように配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	17年10月の開所以来2名の離職があったが利用者のダメージはない。新入職員には馴染みの関係を早期に作られるようなケアの上での工夫や配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験が少ない職員の中、豊かで柔軟なケアへの発想が尊重・採用されケアの充実へと結びついている。外部の研修には積極的に参加し職員へも報告され全体で共有されるようになっている。同法人の事業所での研修も行われている。	○	外部研修やケース検討・ケアカンファレンスなどを通じ、職員を育成する努力が行われているが、さらには年間計画に基づいた教育研修が行われるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホームの管理者で構成される地域のネットワーク会議に参加することで交流の機会はあるが、職員の他事業所への研修や交流はまだ実施されていない。	○	既に依頼している他事業所での研修や見学会・交流会を実施し、相互のケアの経験交流などを通じサービスの向上に取り組まれることを望む。介護をめぐる諸問題も検討され、改善のための課題に取り組まれることも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してホームで過ごせるよう、急な入居とならないよう体験の場を設けたり、家族との情報交換や話し合いを行いながら受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は地域密着型のホームの役割を理解し、利用者の持っている潜在的な力を発揮させようと手を出しすぎない介護へと意識的に取り組んでいる。諸行事などでは利用者から教えてもらったりする場面もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的には家族や利用者の希望や意見を元に意向に沿うようなケアへと取り組んでいる。利用者が発した一言を聞き漏らさず、実家に帰ることを実現させ、本人をはじめ家族や兄弟から大感激していただいたケースもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月2回ケアカンファレンスの場で担当職員から利用者の報告が行われ、職員全体で利用者本位の計画となっているか検討している。計画は家族に送付され、家族の意見や要望も出され利用者本位のケアへと努力されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、全職員で介護計画がモニタリングされ現状に合わせて修正・見直しが行われている。体調の変化があった場合などは、主治医と連絡が取られ、適宜指示を得た上でケア変更している。記録は第三者が分かるようきちんと整理されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関やかかりつけ医への受診が適宜行われ、通院支援や関係者との話し合いが行われている。外泊希望者には外泊していただいたり利用者や家族の要望を聞いた対応が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ入居後も継続して受診している。定期的な受診時には職員が同行し、入居者の経過報告書を提出している。受診後は家族に受診票を他書類と共に送付している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者や管理者は重症化してもできるだけホームで対応したいとの方針を持っており、職員の中でも共有化されている。主治医や家族との話し合いをベースの一つひとつの実践例から今後の終末期のあり方を模索している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者のプライドを大切にされた対応に心がけており、楽しく生活できるような雰囲気を作っている。はるひだよりに掲載される写真や記事も本人や家族の同意が取られ、プライバシー確保を念頭に置いたものとなっている。家族や地域の方・職員を対象に「権利擁護」の学習会が予定されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室などの掃除をはじめ、プランターへの水やり・調理・盛り付け・片付けなど、入居者のペースやその日の体調や気分に合わせて支援している。介護度4の入居者を職員のケアにより食事や排泄などを自立させた実践もある。朝の食事や起床時間に合わせたものでゆったりしたペースとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くで取れた蕎麦やセリ、もらった竹の子などを煮たり、よもぎで饅頭を作ったりとその日の食材に合わせて入居者と共に調理や準備・食事・後片付けを行っている。職員はさりげなく話題を提供しながら食事を楽しむ雰囲気作り心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体に負担がかからない時間帯を考慮したり、年齢や体調に合わせた入浴支援が行われているが入浴支援は2日に一度が基本とされている。	○	毎日や夜間の入浴希望に対応できるような支援の在り方について検討を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の力を活かして家事やプランターへの水やりや季節に合わせた干し柿づくりや饅頭づくりなどの楽しみごとへの支援をはじめ、絵を描いて額にして廊下に飾ったり、書道の特技を活かしたり、絵手紙教室に通って書いたハガキを家族に送って喜ばれたりといろいろな取り組みが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物や散歩・図書館での本借り・理美容院など外に出る機会を多くするようにしている。行事として林檎狩りや水族館・神社・公園などに積極的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前が道路であり危険が予想されるが、前年の評価を受け夜間以外は施錠していない。看板を付けたりセンサーなどで注意をしているが、帰宅願望の利用者には職員の見守りや同行したり、近所の協力を得たりと自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、利用者も参加した夜間の災害を想定した避難訓練を実施した。緊急時には地域からの応援を得られるよう協力体勢が確認されている。	○	災害には多くの人手を要することを念頭に、消防署や地域だけではなく他事業所や公的機関との協力も得られるよう期待したい。非常用の飲料や備品も準備されることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバラエティに富んでいる。一人ひとりの嗜好にも配慮され、食事や水分の摂取量も把握され記録も丁寧に行われている。保健師や栄養士などの専門家の協力が予定されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前は多くのプランターの花で飾られ、癒しの空間となっている。玄関フロアには諸行事のスナップ、廊下には利用者が作られた絵手紙や絵が職員手作りの額などに入れられて飾られ、気持ちよく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作った作品や鏡台・椅子・写真・子供のポスターなど、本人の使い慣れた馴染みのあるもので居室は飾られていて、心地よく過ごせるようになっている。家族からの絵手紙やハガキなども貼られている。	○	本人が自力排泄できるようポータブルトイレが部屋の真ん中に置かれている居室がある。昼間の置き場所の工夫を望みたい。